

団体名	広島市	所属	安佐北区役所	他団体等との連携	可部連山トレイルラン in あさきた実行委員会、地域団体・企業・学校、地元山岳会、近隣市町等
連絡先	地域起こし推進課 (082)819-3905				

取組事例名	可部連山トレイルラン in あさきたの開催	取組期間	平成25年度～
--------------	-----------------------	-------------	---------

取組の概要 ～ 地域団体等との協働による山岳走競技『可部連山トレイルラン in あさきた』の開催

平成25年度から広島県立自然公園南原峡内の可部連山（堂床山、可部冠山、小掛山ほか）をコースとした山岳走競技『可部連山トレイルラン in あさきた』を、地元体育団体や安佐北区役所等で構成する「可部連山トレイルラン in あさきた実行委員会」が主催となり、地域団体・企業・学校、地元山岳会及び近隣市町等との協働により開催している。

取組の背景 ～ 安佐北区の地域資源・地域特性を活用したまちづくりの推進（目玉事業の実施）

安佐北区では、豊かな自然の魅力を区内外に発信し、多くの来訪者を招き入れるとともに、これらの山に親しみ関わる人々のネットワークを活かした自然環境保全の啓発や自然の魅力を更に高めるため、平成22年度から区内の39山を対象に、その登頂数に応じて認定し、タグプレートを交付する「あさきた里山マスター制度」を実施していた。

こうした中、全国各地で山岳走競技（トレイルラン）が人気となっていることを知り、同競技を実施することで安佐北区の豊かな自然の魅力や観光情報等を更に発信し、地域活性化につながる機会になると考え、『可部連山トレイルラン in あさきた』を開催することとした。

取組のねらい ～ 安佐北区の魅力のさらなる発信と地域を挙げた「おもてなし」による地域活性化

安佐北区の魅力である豊かな自然を活用した『可部連山トレイルラン in あさきた』を開催し、地域活性化を図るとともに、広島県内を始め全国から参加者を募ることにより、広島市及び近隣市町の魅力の情報発信の契機とする。

また、大会運営を通じて各種団体の交流促進を図り、地域の連帯感を醸成する。

取組の具体的内容 ～ 『第2回可部連山トレイルラン in あさきた』の開催

『第2回可部連山トレイルラン in あさきた』の開催結果

1 開催内容

- (1) 開催日 平成26年6月1日（日）（サブイベントは5月31日（土）開催）
- (2) 開催場所 中国電力南原研修所（安佐北区可部町綾ヶ谷525）
- (3) コース 広島県立自然公園南原峡内の可部連山（堂床山、可部冠山、小掛山ほか）
ロングコース22km、ショートコース16km（最大高低差600m）
- (4) イベント 地域団体・企業、近隣市町による出店、広島文教女子大学附属高等学校生徒による和太鼓・ダンスパフォーマンス、広島市立安佐北中学校・高等学校及び広島中等教育学校書道部による応援横断幕、第1回大会パネル展示等

2 主催等

- (1) 主催 可部連山トレイルラン in あさきた実行委員会[広島市学区体育団体安佐北区連合会、安佐北区スポーツ推進委員協議会、広島市陸上競技協会、ボーイスカウト広島県連盟安佐地区協議会、広島市安佐北区役所]
- (2) 協力 一般社団法人広島県山岳連盟、南原自治会、公益財団法人広島市スポーツ協会
- (3) 後援 広島市教育委員会、中国新聞社、中国放送、広島テレビ放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、ふれあいチャンネル、FMちゅーピー76.6MHz

3 参加選手数

- (1) ロングコース 297人
- (2) ショートコース 200人 計497人

4 運営体制

- (1) 大会当日 スタッフ364人（うち区職員39人）
- (2) 前日準備 スタッフ75人（うち区職員32人）



取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 大会の企画・運営体制及び安全・救護体制の整備

広島市で初めてのトレイルラン大会であり、大会の企画・運営のノウハウがなかったため、業務全般の進め方が分からなかった。その中でも重要な課題となったコース及び安全・救護体制の整備については、トレイルランのレースアドバイザーとして実績のある「奥宮俊祐氏」や「可部山岳会」の協力を得て、コース設定を始め、山中の主要ポイントまでの距離の計測や倒木などの支障木の撤去、危険箇所への対応等を行うとともに、携帯電話がほとんどつながらない山中における通信体制の整備や走路内救護員の導入などの体制を開催までに整備することができた。

創意工夫した点 ～ 本大会ならではの「おもてなし」

1 広島市立安佐北中学校・高等学校及び広島中等教育学校書道部が制作した応援横断幕の掲示

躍動感あふれる「可部連山に勝て FIGHT」、「走り抜け」など7枚の応援横断幕を山中コースやエイド（給水所）に掲げたことで、過酷なレースに挑む選手に勇気を与えることができた。

2 広島文教女子大学附属高等学校による和太鼓・ダンスパフォーマンスやゴール選手へのおもてなし

女子高生の明るく一生懸命なパフォーマンスや、ゴール選手の出迎えやねぎらいの声掛け、見送りは大変好評で、本大会ならではの「おもてなし」となっている。

3 コース内の声援、エイド（給水所）でのおもてなし

コース内20か所に57人配置した走路内救護員による選手への声援や救護対応など本大会独自の取組や、安佐北区内3地域（高陽・安佐・白木）の担当エイドを分けることにより互いに工夫を凝らし充実した「おもてなし」を行うことで、選手との交流が深まり大会に一層の活気が生まれた。

4 近隣市町との連携

「安芸高田市、北広島町、安芸太田町」に協力を呼びかけ、事前の広報や大会当日の出店ブースでの観光情報のPR、特産品の販売等を連携して取り組み、大会を盛り上げた。



取組の成果（効果） ～ 安佐北区の魅力発信や地域団体等の連帯感の醸成

- 1 目標とする募集定員を2大会連続で確保できたことや、県外からの参加者が増えるなど、全国のトレイルラン愛好者への認知が広がり、来訪のきっかけにもなっている。
- 2 参加者アンケートでは、コース、スタッフ対応、声援、盛り上げ演出の満足度が90%を超えるとともに、自由記述では「山が最高、自然が美しく登山等でまた訪れたい、声援がいっぱいで嬉しい、地域の団結したまち起こしに好感が持てる」などの意見も多くあり、安佐北区の魅力を十分に伝えることができた。
- 3 開催に合わせて宿泊や観光・ショッピング等を行う選手も多く、経済波及効果も生まれている。
- 4 地域団体・企業による特産品の販売、近隣市町による観光PR、地元高校生によるパフォーマンスや声援など、地域を挙げた「おもてなし」を行うことで、安佐北区の魅力発信はもとより、地域の交流促進や連帯感の醸成にもつながっている。
- 5 各種団体との連携により実施した広島県立南原自然公園内の事前清掃では、ゴミの量が年々減少しており、公園内の美化や環境保全の意識が高まっている。

今後の展開 ～ 行政主導から地域主体への移行

現在は行政主導で企画・運営を行っているが、今後は地域団体に大会の企画・運営に関するノウハウを引き継いでいくことで、地域団体が主体となった大会の企画・運営体制への移行を図り、地域に根付いた魅力のある大会となるよう導いていきたい。

他団体へのアドバイス ～ 地域が一体となったまちづくりの推進

第2回大会は、選手497人に対して運営スタッフが364人と充実した体制で地域を挙げて「おもてなし」を行ったことで、選手・スタッフともに満足度が高いものとなり、地域活性化にもつながった。これは、大会の企画・準備段階から地域のいろいろな団体を巻き込み、一緒に悩み考えながら開催したことによる成果であり、こうした一つのきっかけをつくり、地域が一体となったまちづくりを推進することが地域活性化につながるのではないかと思います。